

栃木・日光で勉強会

関東初 古河電工など見学

物流経営士志
物有

【栃木】中部トラック総合研修センター（愛知県みよし市）の物流大学校講座を修了した物流経営士の有志が2日、サンコー（阿部光記社長、栃木県日光市）を幹事役として、日光市で合同勉強会を開催した。サ

ンコーの取引先である古河電気工業日光工場（同市）で荷役安全対策や出荷場を見学した後、業務改善をテーマに意見を交換した。勉強会は、中京地区を中心にした物流経営士のいる事業者が持ち回りで行って

いるもの。今回は親睦旅行を兼ねて、初めて関東で開催した。日光東照宮の見学後、古河電工を訪問。古河物流日光支社の石田和也執行役員支社長から説明を受けた。

工場内に設置した「安全道場」では、主力製品である銅製品の特性と安全作業について説明。出席者は様々な形態に加工した銅製品を持ち上げ、重量を当てる試験などを受け、比重による荷扱いの差を学んだ。

その後、古河電工記念館や出荷作業場を見学。石田支社長は「銅は鉄より比重が高く、コイルが転がった場合、手で止めれば重篤な

労働災害になる。協力会社にも安全作業の教育を進めている」と強調した。サンコーに移動した後、中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）の亀井幸雄取締役を司会に、作業改善

をテーマに討議。サンコーの阿部社長は「我が社は来年、ようやく創業10年を迎える。荷主の安全追求の姿勢に学び、安全第一でやってきた。今後は輸配送から付帯業務に事業を広げる

が、安全追求のためものだ」と来歴を紹介した。討論では、出荷場の改善策について話し合い、「ヤードが手狭。出荷品の配置を見直し、構内でリレーすることも必要だ」などの改

善提案が出た。その一方、「構内にいる人が素性を探らず、あいさつし合う文化はカルチャーショック。地元では取引先にしか、あいさつしない」などの声が上がった。

（佐々木健）



銅製品の重量当て試験を受ける出席者ら

工場内に設置した「安全道場」では、主力製品である銅製品の特性と安全作業について説明。出席者は様々な形態に加工した銅製品を持ち上げ、重量を当てる試験などを受け、比重による荷扱いの差を学んだ。

その後、古河電工記念館や出荷作業場を見学。石田支社長は「銅は鉄より比重が高く、コイルが転がった場合、手で止めれば重篤な

労働災害になる。協力会社にも安全作業の教育を進めている」と強調した。サンコーに移動した後、中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）の亀井幸雄取締役を司会に、作業改善

をテーマに討議。サンコーの阿部社長は「我が社は来年、ようやく創業10年を迎える。荷主の安全追求の姿勢に学び、安全第一でやってきた。今後は輸配送から付帯業務に事業を広げる

が、安全追求のためものだ」と来歴を紹介した。討論では、出荷場の改善策について話し合い、「ヤードが手狭。出荷品の配置を見直し、構内でリレーすることも必要だ」などの改